2026年度（2027年3月期）

# 第2四半期決算　補足説明資料

ぴあ株式会社

東京証券取引所プライム市場

証券コード：4337

# 2026年度第2四半期 決算のポイント

1.当社グループの第2四半期の連結業績は、来日アーティストの大規模公演、人気グループの全国ツアー、音楽フェス、花火大会、プロ野球やJリーグをはじめとするプロスポーツ等のチケット販売が好調に推移。また、主催興行の拡大、「東京建物 ぴあシアター&カンファレンス」の本格オープン、雑誌『とぶ!ぴあ』の定期刊行等の相乗効果もあり、**取扱高は1,800億円規模で過去最高の水準**に。

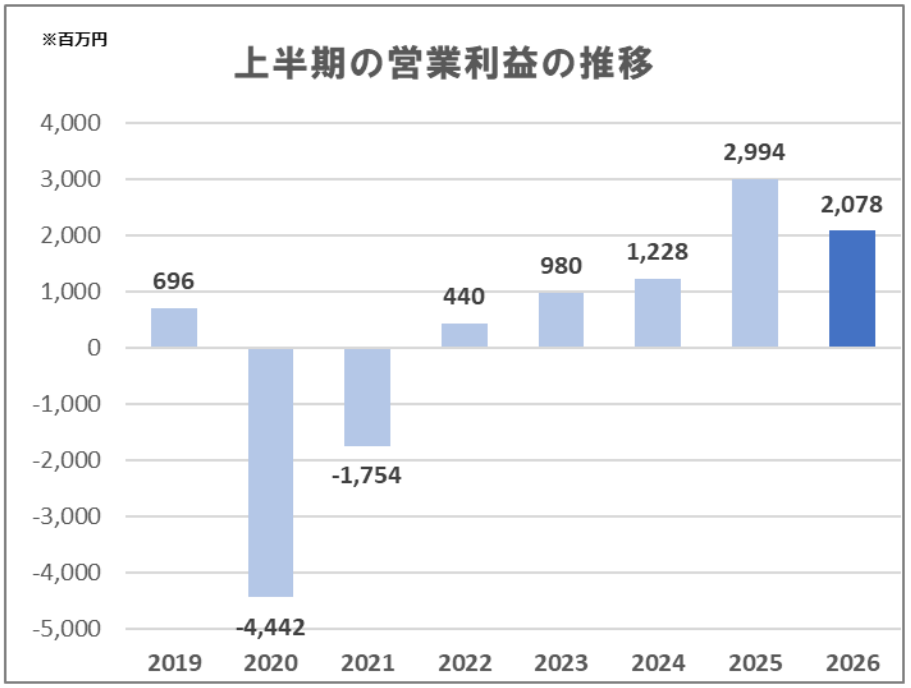
2.利益面では、前年同期に特需的に計上された「大阪・関西万博」関連収益が剥落したことに加え、次世代システムへの移行費用の計上開始、サイバーセキュリティ対策の強化コスト増等により前年同期を下回るものの、こうした**今期特有の要因を除いた“稼ぐ力”は引き続き増加基調を維持**。

3.チケッティングやホスピタリティ、公式ファンゾーンの運営を受託した「アジア・アジアパラ競技大会」(愛知・名古屋)や、「国際園芸博(GREEN×EXPO 2027)」(横浜・瀬谷)のチケット販売業務受託等も追い風となり、当社グループの業績は**中期経営計画の想定通り着実に進捗。**

4.昨今のサイバー攻撃に即したセキュリティ強化等、追加的に発生する費用も想定されることから、現時点においては、**2026年５月公表の予想数値は変更しない。**

# 2026年度第2四半期 決算の概要




| [単位:億円] | 2023年度 | 2024年度 | 2025年度 | 2026年度(予想) |
|---|---|---|---|---|
| 売上高 | 396 | 454 | 553 | 480 |
| 取扱高※ | 2,413 | 2,705 | 3,033 | 2,900 |
| 営業利益 | 12 | 26 | 43 | 25 |
| 経常利益 | 9 | 24 | 43 | 23 |
| 当期利益 | 11 | 16 | 33 | 15 |
| 1株当たりの配当金 | 0円 | 0円 | 35円 | 30円 |

※取扱高：旧会計基準での売上高であり、東証に開示している数値ではありません

# 第2四半期の主な取り組みとトピックス

## 「第20回アジア・アジアパラ競技大会」(名古屋・愛知)のチケッティング業務を全面受託。ホスピタリティ、公式ファンゾーン「ONE ASIA WORLD」(OAW)の企画・運営も無事完遂









日本では32年ぶり開催のアジア競技大会では、予想を上回る約110万枚超のチケットを販売し、43競技・54会場の入場管理を完遂。公式ファンゾーンでは500人近いメダリストがセレブレーションに参加、約36万人が来場。賑わいを創出し、大会運営を支えた。

## 新たなホールネットワークを拡充。5月に東京駅直結「東京建物ぴあシアター&カンファレンス」、6月には「PIT」の系譜を引き継ぐライブハウス「Shibuya PIT ZERO」がオープン



▲東京建物 ぴあシアター：収容人数約800人



▲東京駅直結の TOFROM YAESU TOWER




▲ Shibuya PIT ZERO：収容人数約250人

「感動のライフライン事業」の構築に向けて、ヴェニューネットワークの拡大を推進。施設周辺の地域と連携した街づくりイベント等も企画・運営している。

# 第2四半期の主な取り組みとトピックス

## エンタメとの偶然の出会いを求める方に向け、『ぴあ』が15年ぶりに“月刊誌”として復活。QRコードでデジタル版「ぴあ」へ“とぶ！”ハイブリットメディアを創刊




◀表紙は『ぴあ』の代名詞ともいえるイラストレーター・及川正通氏によるイラストレーションと、話題のコンテンツによる両面構成

**今年4月の復刊は、新聞、TV、WEB、雑誌など100超の媒体で紹介される話題に。300万人の東宝の会員サービスとの連携をさらに進化させる。**

## 若手映画監督の育成と日本映画界のさらなる発展を目指し、PFFによる「李相日スカラシップ基金」を9月に創設




▲ 設立記者発表を、李監督、東宝・松岡社長とともに実施。基金は次回以降の「PFFプロデュース作品」の制作費に充てられる。

**PFF出身・李相日監督の映画「国宝」の歴史的大ヒットを受け、「第2、第3の李監督が生まれるチャンス」を創出。基金には、ぴあ(2億円)、東宝(1億円)の計3億円を拠出、目標の10億円を目指して支援を呼びかけていく。**




◀第48回ぴあフィルムフェスティバルでは、歴代二番目の834作品の応募の中から、今年の受賞監督が発表された